

みずほオートリース通信

2025年6月号

梅雨の季節、雨天の運転時に注意すべき点は？

梅雨時に交通事故が多発する 4 要因

1. 雨による視界の悪化

梅雨時は空も曇天で薄暗い状態が続き、雨が降ると視界はより悪化します。雨量によってはワイパーを使っても十分な視界を確保できない状況もあります。

2. 雨音による車内と車外の音の遮断

地面や車体に叩きつけられる雨音が外の音を遮断し、耳から入る情報が少なくなり、事故を誘発するリスクが高まります。

3. 雨による路面状況の悪化

タイヤと路面の間に水が入ることで摩擦力が失われ、ハンドルやブレーキが効かなくなる「**ハイドロプレーニング現象**」が起きることがあります。この現象が起きる要因は「スピード超過」、「タイヤの溝の摩耗」、「タイヤの空気圧不足」の3点です。道路が濡れ、水たまりが多い道路を走行する際には慎重な運転が求められます。

4. ドライバーの心理的な問題

梅雨時の運転は平常時と違い「視界の悪化」、「雨音」、「路面状態の悪化」という3つの要因により、通常よりも集中してハンドルを握る日が多くなり、ドライバーは運転時のストレスが高い状況が続くと疲労の蓄積が増し事故の原因となる可能性があります。



梅雨時の安全運転対策

■運転編

「視界」、「聴力」、「路面状態」の3点を意識することが重要です。「スピードを出し過ぎない」、「車間距離を十分にとる」など基本に忠実な運転を心掛け、「ウィンカーを早めに出す」、「ブレーキは早めに踏む」などランプの点滅により、周囲の車両にこちらの意図を早めに知らせることが対策となります。

■点検とメンテナンス編

○ワイパーの交換

ワイパーゴムは長年使用するうちに劣化します。ワイパーの交換時期は車の使用頻度にもよりますが、一般的に1年前後とされています。

○ウインドウ、ミラーの清掃

フロントガラスに油膜が付くと撥水が悪くなり視界の悪化を招きます。梅雨時は雨により油膜が付きやすくなるため、フロントガラスやサイドミラーなどはこまめなお手入れが必要になります。

○タイヤの交換

雨のスリップ事故をなくす意味でも、「タイヤの溝」がすり減っていないかのチェックは必要です。タイヤ交換のポイントは、「溝の減り」がどの程度かによります。一般的には、タイヤの溝が4割ほど減ったら交換のタイミングとされています。

「低燃費運転」と「災害に強い車」について

災害時は給油に制限も。災害時にも有効な低燃費運転とは？

1. 駐停車中のアイドリング時間を減らす

アイドリングは10分間で約0.13Lの燃料を消費するといわれています。アイドリングの時間を減らすことで燃費の向上だけでなく、排気ガス排出の削減や停車中の騒音抑制効果といったメリットもあります。

2. 急加速・急減速をしない

急加速はエンジンの高回転域を使うことになり、燃費を悪化させます。また急減速もエンジンの回転数を急に下げるため、燃費に悪影響を及ぼします。ゆるやかなアクセル・ブレーキを心掛けましょう。

3. 不要な荷物を下ろす

不要な荷物を積んでいると、車が重くなり、動かすために余計なパワーを要するため燃費が悪化します。車重を軽量化することで燃費改善につながるため、不要な荷物を積んだままの走行は避けましょう。

4. タイヤの空気圧を適切にする

テスト結果*によるとタイヤの空気圧が指定空気圧よりも30%低下した状態で走行すると、通常の状態で行った場合に比べ、燃費が約4.6%悪化するという結果が出ています。タイヤの空気圧は見た目での判断が難しいので、燃費の悪化を最小限に抑えるために、タイヤの空気圧は月に1回程度はガソリンスタンドなどでエアゲージでの計測をお勧めします。*JAF(日本自動車連盟)が2021年に行った燃費テスト

比較的災害に強い車とは？

低燃費車

燃費30Km/L超の低燃費車は相応の人気があるようです。一部の低燃費車には燃費を最適化するためにエンジン出力を制限する機能である「エコモード」が搭載されており、特に災害時には「エコモード」を活用することで燃料節約効果が期待できます。

EV車

EV車はモーターを動力源としているため、大容量バッテリーを搭載しています。この大容量バッテリーの電力を使えば、様々な電化製品を一定時間使えますので、地震などの災害時において電気が使えなくなった際に、非常用電源としての利用価値が見込めます。



画像、出典：下記資料、ウェブサイトを参照し、一部引用のうえ当社で作成。
キムラユニティー株式会社 車両管理ウェブマガジン「地震で再注目【低燃費運転】と【災害に強いクルマ】」
<https://www.carmanagementservice.com/mail/240314.html>